

栃木県議会議員

# 平木ちさこ 活動レポート

# 元気ネット

発行  
平木ちさこ  
事務所  
〒321-1274 栃木県日光市土沢1962  
TEL 0288-26-6739  
FAX 0288-26-6759  
Eメール hiraki-chisako@nifty.com

ホームページ <http://hirakichisako.com> (毎月20日更新)

## 1 杉並木バイパスのこれから

今市の大沢バイパスが完成し、あとは水無バイパスの2.9kmが残っている。

事業費の確保が難しく遅れているわけだが、今後の工費は約25億円かかる。国の方針が学童の歩道整備や、産業団地へのアクセスなどに優先されており、「杉並木の保護」という真正面からの予算は取りにくい。

現在は「渋滞緩和策」として国の「快適な道作り交付金」を使っているが、これも年間予算で3,000万円から5,000万円を確保するのがやっと。では今後50年かかるのではないかと質したところ、用地が固まれば億単位で予算を入れたい、との答弁があった。

着手しているところをまずは優先的にやり、連続して板橋から鹿沼への文挟バイパスに入りたいとの意向。いずれも早期着工を要望して行く。

## 2 県道277号 小来川・清滝線は

同線道路整備促進期成同盟会からの県への要望に私も顧問として立ち会った。

同会は、8km間の拡幅と災害防除について要望し、特に最近ではカーナビで他県の車が入ったり、自転車で列をなして入る人たちも多く危険であることを訴えた。

要望に対し、「これまでに25ヵ所の要望のうち14ヵ所が完了しているが、順次対策にあたる。待避所については、昨年度までに7ヵ所の待避所を作ったが今年度もさらに1ヵ所

を整備する。和之代大谷川橋は築55年の老朽橋のため今年度から用地調査・取得を行い早期整備にかかる」と印南県土整備部長から回答があった。

私も走ってみたが、紅葉の美しいくねくね道だった。

## 3 中宮祠・足尾間道路建設促進期成同盟会からも県へ要望

同会は、いろは坂の渋滞緩和や土砂災害などで通行止めになった際の観光や市民生活への被害を回避するため、半月山駐車場から足尾町深沢地区までの道路建設を訴えた。

これに対し、「第三のいろは坂とも言える路線ではあるが、ここを整備するには800億円から1,000億円がかかる。現在県全体の道路予算は交付金で年間250億円。これをやるには、4年間全ての県内の道路工事をストップしてやることになる。急峻な山岳地帯であり、需要・財源確保などの総合的視点から、今のところはいろは坂の維持を中心に、渋滞対策として昨年度、中宮祠の右折レーンを整備した。また、今後は行楽期の信号サイクルをまめに対応するなど、ソフト面の対策を取って行きたい」との回答であった。

\*

他にも市内の道路の改良工事への要望があるが、やはり県は地元の用地確保が整ったところから手を付けやすい。地元で期成同盟を作り要望して行くと少しずつではあるが、進んで行くようだ。

# 日光市の 道路3題

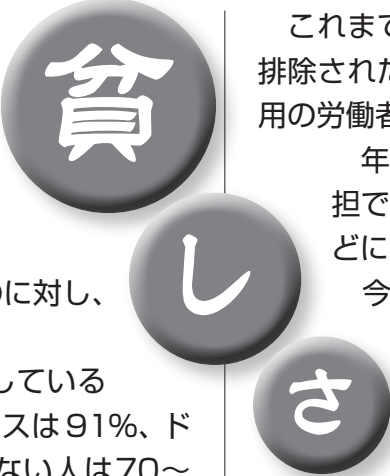
## 日本のこどもの貧困率が16.3%と言われて久しい。

親子2人世帯で年間所得173万円、4人世帯で244万円以下を指す。今や働く人の38%が非正規社員で、女性に限ると50%を超える。

1987年には預貯金0世帯が4%強だったのに対し、2013年には31%に増えている。

また、生活保護を受けるための条件を満たしている人のうちの15~20%が受給しており(フランスは91%、ドイツは65%)、条件は満たしつつも受けていない人は70~80%にのぼる。

また、経済規模が変わっていないのに、貧富の格差が著しく不公平な社会になっている。企業の内部留保は1988年に100兆円だったのが2012年に300兆円に、2014年には324兆円に増えている。85%の勤労者の給与賃金を15%の雇用者が決めている。勤労者の財布の中身が企業の内部留保へと移っていると言っても過言ではない。たとえ時給1,000円になったとしても、年間2,000時間働いて200万円だ。アメリカの最低賃金は15ドル(約1,800円)だ。



これまで貧困や失業・非正規雇用の問題は、正規雇用から排除された人たちの問題ととらえがちだったが、実は正規雇用の労働者にも直接かかわる問題だ。

年金・医療・介護などの社会保障制度は若い世代の負担で支えられているが、非正規雇用や低賃金・少子化などにより制度の前提が成り立たなくなって来ている。

今や制度と実態がかけ離れてしまった。多くの若者が高齢者を支える胴上げ状態から騎馬戦や肩車状態に変わってきている。気持ちがあっても結婚できない、子どもを産めない、年金を払えない若者たちがいっぱいいるのだ。

\*

## ■進学出来ない「奨学金問題」

教育の機会均等も揺らいでいる。

以前は4人に1人だった奨学金の貸与が現在は大学生の2人に1人が利用している。

学生の奨学金の8割を占める日本学生支援機構の奨学金は有利子奨学金が7割を占める。

例えば月に12万円借り、入学時に50万円を借りると4年間の貸与総額は626万円。上限利率3%の利子で借り [裏面に続く](#)

た人の返済総額は843万円を超える。返還年数20年としても月35,000円ずつ返済しなくてはならない。これは、正規雇用にならなければ払い続けられない金額だ。現在は固定利率で0.82%だが、それでも20歳そこそこの若者の肩に重くのしかかり、返還金の重みが卒業後の人生を左右する。

そのため返還は無理とみて受給を断念し、進学自体を諦めてしまう子どもたちも少なくない。たとえ進学しても少ない奨学金で何とかしようとアルバイトに追われ、ブラックバイトに疲れて単位を取れずに大学を辞める子もいる。

貧しい学生の足元を見るように、アルバイトなどの非正規労働者を労働力の正規軍として安く使っている企業が少なくない。正規雇用一人が多くの非正規雇用を使っている、責任感の強い学生ほど、自分がいないと仕事が回らないと、ズルズルと働く時間を延ばし、延ばされている。

\*

**若**者の貧困・奨学金問題は個人の問題ではなくもはや社会的問題だ。自己責任論を超えて社会全体で若者を支援しなければならない。自己責任の前に機会の均等がなければ話にならない。そのスタートラインがそもそも崩れている。

奨学金を給付型とすることが大切だが、まず無利子にするためには、国の単年度当たりの貸与総額は1兆2,000億円、

今後3人に2人が借りたとしても利子分は984億円。

これだけあれば20年前に借りた人のもも無利子に出来る。

\*

**学**びたい若者がお金の心配なく学び優秀な人材が育つことは、日本の社会・企業にとって良いことだ。そのためには、教育は個人に帰するものとして私物化してとらえるのではなく、社会全体に帰する大切なもの、社会の資産としてとらえてゆくべきだと、私は思う。学問は人々を幸せにするためにあるのだから。

さまざまなリスクを個人化し、自己責任論がまかりとおる社会が良いのか、家の中でこっそり起きている様々な問題も実は社会全体の歪みから来ていることも少なくない。そんなリスクを社会化して対応してゆく社会が良いのか、いつも最後はそこに行き着く。皆さんはどのようにお考えですか？

(参考文献：中央労働福祉協議会・山本幸司氏セミナー／民主党議員フォーラム／書籍「ブラック企業2」)

若者は“社会の資産”



宿泊客が欲しい

～ある旅行代理店のOBの話～



**日**光市は首都圏に近く日帰り客が増えている。だが、日帰り旅行は出発地のバス会社や旅行代理店などにお金が落ち、現地には入場料と飲食代、土産代しか落ちない。一方、宿泊となるとそれに宿代の最低1万円はプラスになる。

また、おもてなししていればお客が来るといったら大間違いだ。リピーターというのは、そこを忘れないから来るので

あって、私たちもどこかでおいしいものを食べたり楽しかったりして、その時は「また来よう!」と思っても3ヵ月も経てばもう忘れてしまう。よほど強烈な「忘れない!」を持ち帰ってもらわねばリピーターにはならない。

\*

**自**治体も観光にいっぱいお金を使っているが、旅館やホテルは依然と苦しく、働く人の労働条件も良くならない。一方で、テレビでは旅番組の視聴率が依然と高く、マーケットは多いということだ。接客も、経営者や女将が本気でこのお客さんにまた来て欲しいと思っているのか、それが働く人たちに伝わらねばダメ。10歩手間の笑顔5歩手前の会釈、この気持ちを徹底することは簡単なようでも基本である。

### お気軽にご参加ください

**元気会** 毎月第1土曜日 10時～11時30分

日時▶ 12月5日(土) 2016年1月9日(土)

●会場：元気ネット事務所(日光市土沢1962)

●内容：議会報告や時事問題について話し合います

※会費、申し込みは不要

**女性の茶話会** 毎月第1水曜日に変更 19時～21時

日時▶ 12月2日(水) 2016年1月6日(水)

●会場：元気ネット事務所(日光市土沢1962)

※女性ならではの話が尽きません。

※会費、申し込みは不要

県政について、みなさんのご意見をお寄せください。



[Eメール] [hiraki-chisako@nifty.com](mailto:hiraki-chisako@nifty.com)

※平木ちさこの「元気ネット」ホームページは奇数月20日更新です。

※平木ちさこオフィシャルサイト <http://hirakichisako.com>

平木ちさこ 検索



### 現職女性議員と学ぶ 女性のための政治スクール

2016年1月開校《参加無料》

現職女性議員とともに活動してみませんか。

■実施期間 2016年1月～3月(期間中に3～5回)

「説明会」開催

■日時：12月12日(土) 午後1時30分から

■場所：ホテルニューイタヤ (宇都宮市大通り2-4-6 ☎028-635-5511)

■申込先：民主党栃木県連 ☎028-627-1700 担当：永見

インターンを受け入れる現職女性議員

栃木県議会議員 平木ちさこ	日光市議会議員 阿部 和子
栃木県議会議員 山田美也子	那須塩原市議会議員 山本はるひ
宇都宮市議会議員 福田 智恵	真岡市議会議員 春山 則子
	小山市議会議員 青木美智子